2026 年 11 月 25 日
コスモエネルギーホールディングス株式会社
コスモ石油マーケティング株式会社
コスモエネルギーソリューションズ株式会社

小豆島太陽光発電所に再生可能エネルギー電源併設型蓄電池を導入
～FIP への移行と蓄電池の最適運用により再エネの価値最大化をめざす～

コスモエネルギーホールディングス株式会社（代表取締役社長：山田 茂）と、グループ会社であるコスモエネルギーソリューションズ株式会社（代表取締役社長：河村 靖之、以下「コスモエネルギーソリューションズ」）は、コスモエネルギーソリューションズが運営する小豆島太陽光発電所（香川県小豆島町）において、発電所敷地内に蓄電池を併設する事業（以下「本事業」）を開始します。本事業は、コスモエネルギーグループにおいて再生可能エネルギー電源への蓄電池併設を事業化する初の取り組みであり、2028 年 1 月の運転開始をめざします。



小豆島太陽光併設蓄電所の完成予想図

【背景と事業概要】

近年、再生可能エネルギーの導入拡大に伴い、電力供給が需要を上回る時間帯が増え、発電設備の出力を抑える「出力制御」が増加しています※1。脱炭素社会の実現に向けては、太陽光発電のポテンシャルを最大限に活かすために蓄電池を活用した取り組みが注目されています。

本事業では、太陽光発電所の敷地内に新設する蓄電池（一般家庭約 700 世帯分の 1 日の使用電力量に相当）と、既存の太陽光発電設備をコスモエネルギーソリューションズが一体的に運営します。既存の太陽光発電設備は FIT※2 から FIP※3 への移行に向けて準備を進めています。FIP への移行後は、発電状況、蓄電池の状態、電力市場価格等を踏まえて充放電計画を最適化し、日中に発電した再生可能エネルギー電力を蓄電池へ充電して、需要が高ま

る時間帯に放電する「タイムシフト」に加え、卸電力市場と需給調整市場での取引を最適に組み合わせる「マルチユース運用」※4 を行います。これにより、再生可能エネルギーの有効活用、発電事業の収益性向上を図るとともに、電力系統の安定化に寄与します。

■小豆島太陽光併設蓄電所

所在地	香川県小豆島町
〈太陽光発電設備〉	
発電開始時期	2015 年 8 月
太陽光発電出力	約 2 MW
〈併設蓄電池〉	
運転開始時期（予定）	2028 年 1 月
採用蓄電池	(株)パワーエックス社製
蓄電池出力	約 2 MW
蓄電池容量	約 8 MWh

コスモエネルギーグループは長期ビジョン「Vision 2035」において、電力サプライチェーンへの取り組みを重要な施策の一つに掲げ、サービスステーション跡地を活用した系統用蓄電所の建設※5 など、蓄電ビジネスを推進しています。今後は本事業で得られる知見を、他社が保有する太陽光発電所へ展開し、再生可能エネルギーの価値最大化と電力サプライチェーンの強化をめざします。

※1　資源エネルギー庁「再生可能エネルギー出力制御の長期見通し等について」（総合資源エネルギー調査会 再生可能エネルギー主力電源化小委員会／次世代電力系統ワーキンググループ 第 12 回、2026 年 8 月 6 日 資料 1-1）。
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/saisei_kano/smart_power_grid_wg/012.html

※2　FIT（Feed-in Tariff：固定価格買取制度）は、再生可能エネルギー電源で発電した電気を電力会社が固定価格で買い取ることを国が約束する制度。

※3　FIP（Feed-in Premium）は、市場価格にプレミアムを上乗せする制度。市場連動型のため、蓄電池を活用した収益最大化に適している。

※4　マルチユース運用は、蓄電池を複数の用途や市場で活用する運用方法。本事業では、太陽光発電の電力を最も価値の高い時間帯や市場で活用できるよう、卸電力市場での取引と、需給調整市場への調整力の供給を組み合わせる。

※5　2026 年 2 月 25 日付プレスリリース「サービスステーション跡地を活用した高圧系統用蓄電所の建設に着手」　https://www.cosmo-energy.co.jp/ja/information/press/2026/260225-01.html

以上

【本件に関するお問い合わせ先】
コスモエネルギーホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション部　広報グループ　横山
cosmo_pr@cosmo-oil.co.jp